

書評

〔評者〕
早田 宏
佐世保市総合医療センター
呼吸器内科/副院長



COPD の教科書 呼吸器専門医が教える診療の鉄則 林 清二 監修 倉原 優 著

● A5・頁 348 2016 年 4 月
定価：本体 4,200 円＋税
[ISBN978-4-260-02429-7] 医学書院刊

倉原優先生のブログは、文献量とその質の高さから、呼吸器内科医では知らない人がいないくらいである。このたび、その倉原先生による『COPD の教科書—呼吸器専門医が教える診療の鉄則』が出版された。COPD の患者は重症度、呼吸困難感の訴え、合併症によってさまざまな臨床像を示し、診療に当たっては個別化が必要である。

複雑なことを難しく書くことは誰にでもできるが、わかりやすく述べることは容易なことではない。多様な COPD の診療を詳しく書けば書くほど、〈COPD の本質〉を見失いがちになる。一方、単なるガイドラインの解説だと実際の患者像から遠く離れてしまう。本書は、読み物という体裁を取ってはいるが、〈COPD の本質〉を極めている優れた医学書である。文献の英語原著論文の数からもわかるように、最新のエビデンスを基盤に、おそらく著者が出会った一人ひとりの患者から得られた実体験が、その内容に反映されている。

特に、出色の出来栄えなのは、最近販売された数多くの吸入薬の説明である。臨床試験データとともに吸入器具の特性や患者の個別性を踏まえて、吸入治療薬の選択アルゴリズムが極めてわかりやすく提案されている。また、多くの呼吸器専門医が常々感じていること

も解説されている。例えば、長時間作用性抗コリン薬 (LAMA) と長時間作用性 β_2 刺激薬 (LABA) の選択順位、LAMA と LABA の心血管系合併症への懸念などである。また、各薬剤の治療効果の図が多く、LAMA 単独では 1 秒量の約 100 mL の上乗せ、LAMA/LABA 合剤では約 200 mL の上乗せという日々の患者説明の再確認を評者はさせていただいた。

一方、本書は単なる吸入薬のマニュアル書ではない。死亡減少効果が明らかな禁煙や在宅酸素療法 (適用基準例) が治療の基本であることが詳しく述べられている。さらに、回復しても患者を階段状に悪化させてしまう急性増悪時の薬物療法や NPPV 療法のポイントが説明されている。そして、重症 COPD 患者では避けては通れない緩和ケア (モルヒネ使用の課題) と人工呼吸器装着の Advance Care Planning の話題へと展開していく。

約 330 ページの中に〈COPD 治療の神髄〉が全て書き込まれているのは感嘆の限りである。単なる読み物ではなく、エビデンスを重視しながらもそれを超えた、患者中心の医療の理念が軽妙な語りの中に込められている。本書を、COPD 診療に関わるすべての医療職にぜひ読んでもらい、明日からの診療に役立てていただきたい。